

## 将来人口推計について

### 1. 国の人口ビジョンに基づく将来人口推計について

#### (1) 推計方法について

人口ビジョンの策定に向けて、国から提供されたワークシート(令和元年6月版)に基づき、主に合計特殊出生率(※1)の影響を踏まえて、令和47年(2065年)までの将来人口推計を行ったものです。

#### (2) ケースごとの推計人口について

新・宮城の将来ビジョン(2021~2030)【宮城県策定】でのケーススタディを参考に以下のとおり推計しています。

ケース		合計特殊出生率	推計人口	
			令和12年 (2030年)	令和47年 (2065年)
ケース1	社人研(※2)推計準拠 (H27 国勢調査人口を基礎とした社人研推計に準拠し2065年までの人口を推計したもの)	1.25で推移 人口動態保健所・市区町村別統計(平成20~24年)の値	45,625人 (△8,562人・△15.8%)	23,186人 (△31,001人・△57.2%)
ケース2	合計特殊出生率向上① (ケース1を基に右の合計特殊出生率で推計したもの)	2030年:1.60 2035年:1.80 2040年:2.07	46,366人 (△7,821人・△14.4%)	27,888人 (△26,299人・△48.5%)
ケース3	合計特殊出生率向上② (ケース1を基に右の合計特殊出生率で推計したもの)	2030年:1.80 2040年:2.07	46,800人 (△7,387人・△13.6%)	28,497人 (△25,690人・△47.4%)

( )はH27国調人口54,187人との比較

### 2. 第6次長期総合計画における将来人口の設定について

- 全国的な人口減少と少子高齢化の進展は、子育て、教育、産業、地域生活など様々な分野に大きな影響をもたらします。
- 本市は他市と比較し高齢化率が顕著に高い状況で推移することが見込まれます。このことから、持続可能なまちづくりに向けては、人口減少が急速に進んでいく中においても、特に人口構造の変化を注視し、年少人口や生産年齢人口の比率低下を防ぐための取組が重要です。
- 推計人口を参考としながら人口ビジョンの策定を進め、将来人口として、本市にとっての持続可能な人口や人口構成を示すことで、基本構想素案に掲げている「わたしたちが目指すまちのすがた」につなげてまいります。

(※1) 合計特殊出生率…「15~49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」であり、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

(※2) 社人研…国立社会保障・人口問題研究所の略。人口・世帯数の将来推計や社会保障費に関する統計の作成・調査研究などを行う、厚生労働省の政策研究機関。2015年の国勢調査人口をもとに2045年までの各自治体の人口を推計している。

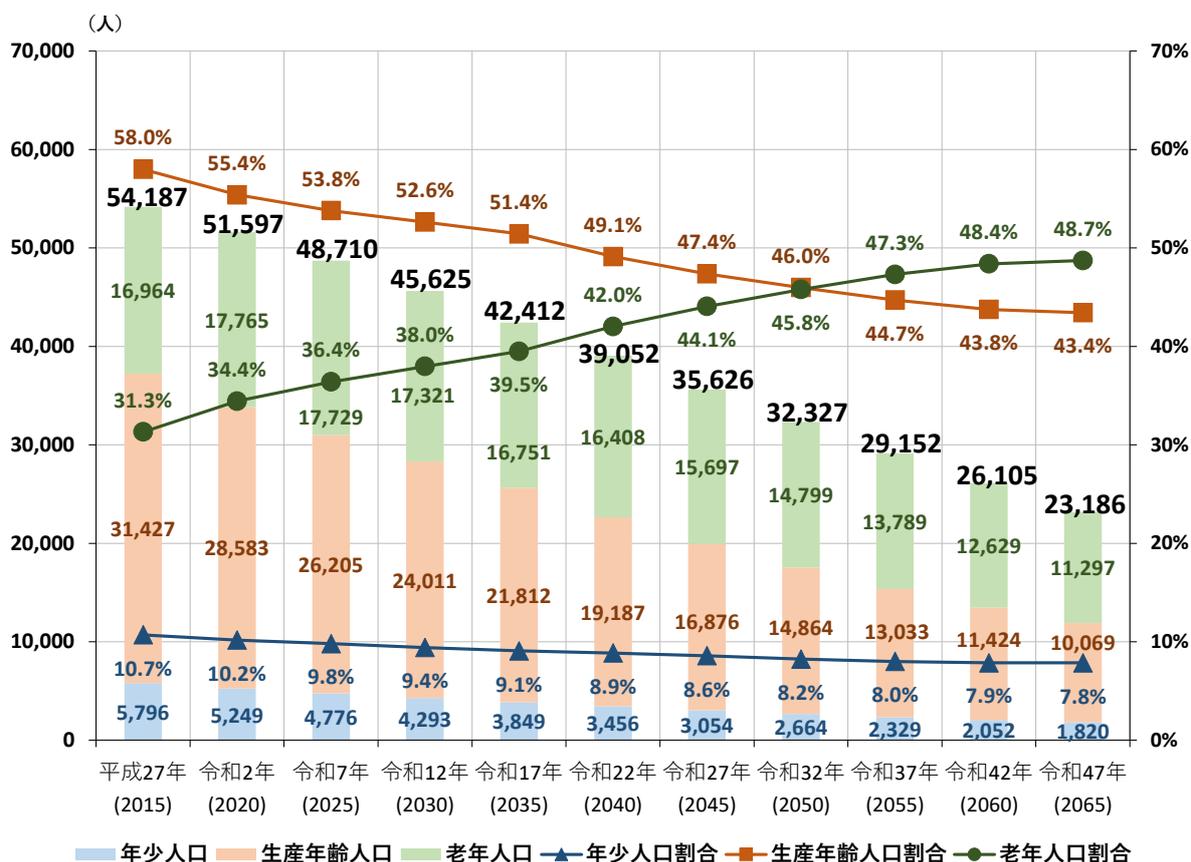
## ケースごとの推計人口について

ケースI	推計条件
社人研推計準拠	社人研(平成30年推計)に準拠した場合(合計特殊出生率が <u>1.25前後で推移</u> ) 【人口動態保健所・市区町村別統計(平成20~24年)の値】

### ■年齢3区分別人口の推移

(人)

総人口	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	令和32年 (2050)	令和37年 (2055)	令和42年 (2060)	令和47年 (2065)
年少人口	5,796	5,249	4,776	4,293	3,849	3,456	3,054	2,664	2,329	2,052	1,820
生産年齢人口	31,427	28,583	26,205	24,011	21,812	19,187	16,876	14,864	13,033	11,424	10,069
老年人口	16,964	17,765	17,729	17,321	16,751	16,408	15,697	14,799	13,789	12,629	11,297
総人口	54,187	51,597	48,710	45,625	42,412	39,052	35,626	32,327	29,152	26,105	23,186



ケース2	推計条件
合計特殊出生率向上①	合計特殊出生率が令和12(2030)年に1.6、令和17(2035)年に1.8(希望出生率)(※3)、令和22(2040)年に2.07(人口置換水準)(※4)に到達すると仮定した場合

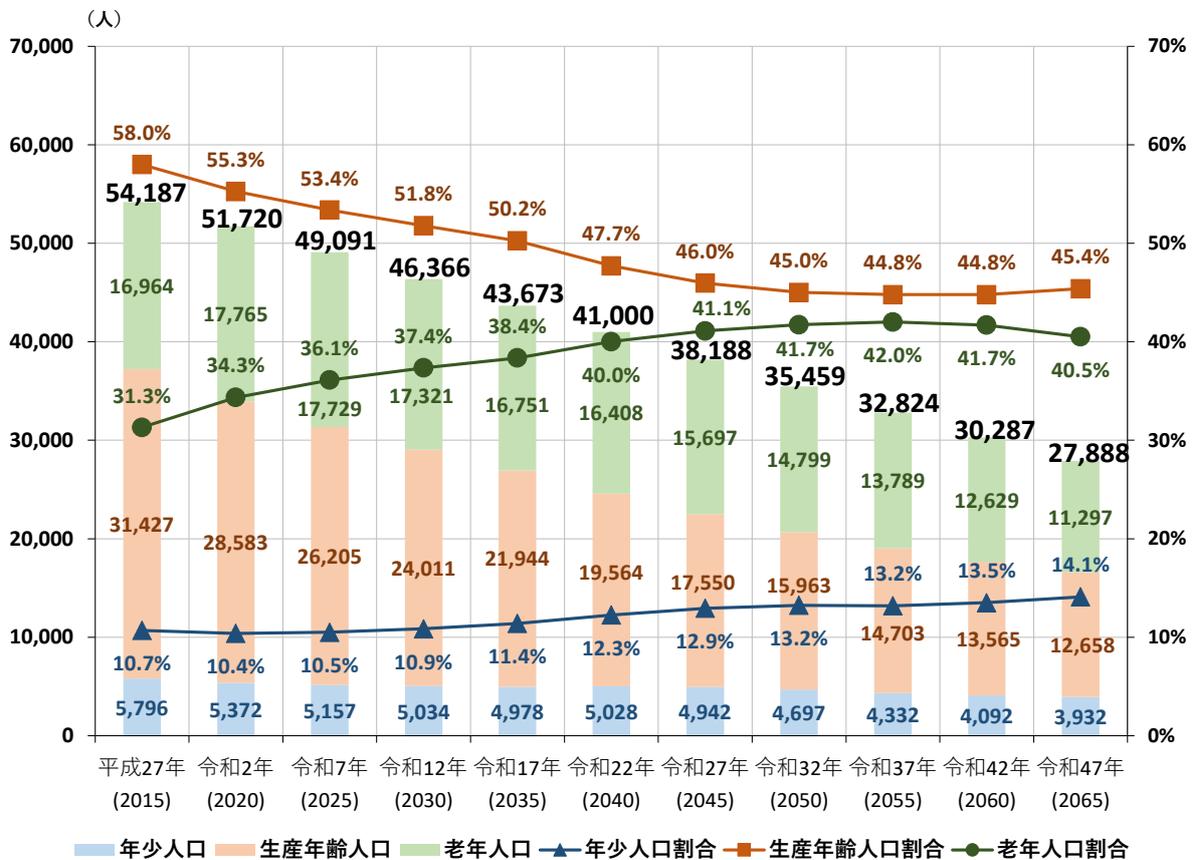
(※3) 希望出生率…若い世代における、結婚、子供の数に関する希望がかなうとした場合に想定される出生率。2015年9月の「アベノミクス新3本の矢」において、「子育て支援」を充実して希望出生率1.8の実現を目指すことされた。

(※4) 人口置換水準…人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。(現在の日本の人口置換水準は2.07)

### ■年齢3区分別人口の推移

(人)

総人口	平成27年(2015)	令和2年(2020)	令和7年(2025)	令和12年(2030)	令和17年(2035)	令和22年(2040)	令和27年(2045)	令和32年(2050)	令和37年(2055)	令和42年(2060)	令和47年(2065)
年少人口	5,796	5,372	5,157	5,034	4,978	5,028	4,942	4,697	4,332	4,092	3,932
生産年齢人口	31,427	28,583	26,205	24,011	21,944	19,564	17,550	15,963	14,703	13,565	12,658
老年人口	16,964	17,765	17,729	17,321	16,751	16,408	15,697	14,799	13,789	12,629	11,297
総人口	54,187	51,720	49,091	46,366	43,673	41,000	38,188	35,459	32,824	30,287	27,888

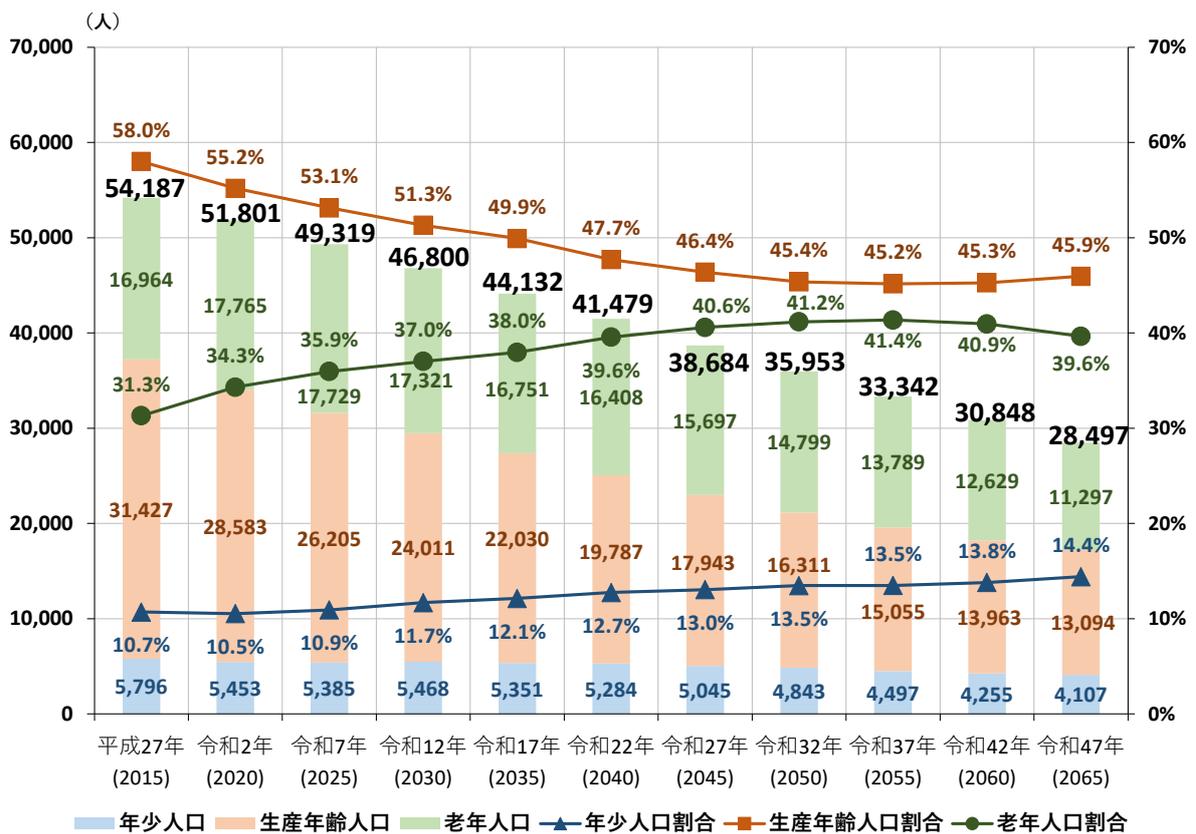


ケース3	推計条件
合計特殊出生率向上②	合計特殊出生率が令和12(2030)年に1.8(希望出生率)、令和22(2040)年に2.07(人口置換水準)に到達すると仮定した場合(国の人口ビジョンと同じ推計条件)

■年齢3区分別人口の推移

(人)

総人口	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	令和32年 (2050)	令和37年 (2055)	令和42年 (2060)	令和47年 (2065)
年少人口	5,796	5,453	5,385	5,468	5,351	5,284	5,045	4,843	4,497	4,255	4,107
生産年齢人口	31,427	28,583	26,205	24,011	22,030	19,787	17,943	16,311	15,055	13,963	13,094
老年人口	16,964	17,765	17,729	17,321	16,751	16,408	15,697	14,799	13,789	12,629	11,297
総人口	54,187	51,801	49,319	46,800	44,132	41,479	38,684	35,953	33,342	30,848	28,497



## ■将来人口推計の比較結果

(人)

ケース	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)	令和32年 (2050)	令和37年 (2055)	令和42年 (2060)	令和47年 (2065)
ケース1 社人研推計準拠	54,187	51,597	48,710	45,625	42,412	39,052	35,626	32,327	29,152	26,105	23,186
ケース2 合計特殊出生率向上①	54,187	51,720	49,091	46,366	43,673	41,000	38,188	35,459	32,824	30,287	27,888
ケース3 合計特殊出生率向上②	54,187	51,801	49,319	46,800	44,132	41,479	38,684	35,953	33,342	30,848	28,497

